

心安らかに生活するために

行動の背景に目を向ける

を少しでも和らげ安心して生活ができる支援を目指し、研修が始まりました。

行動を読み取る スキルアップ

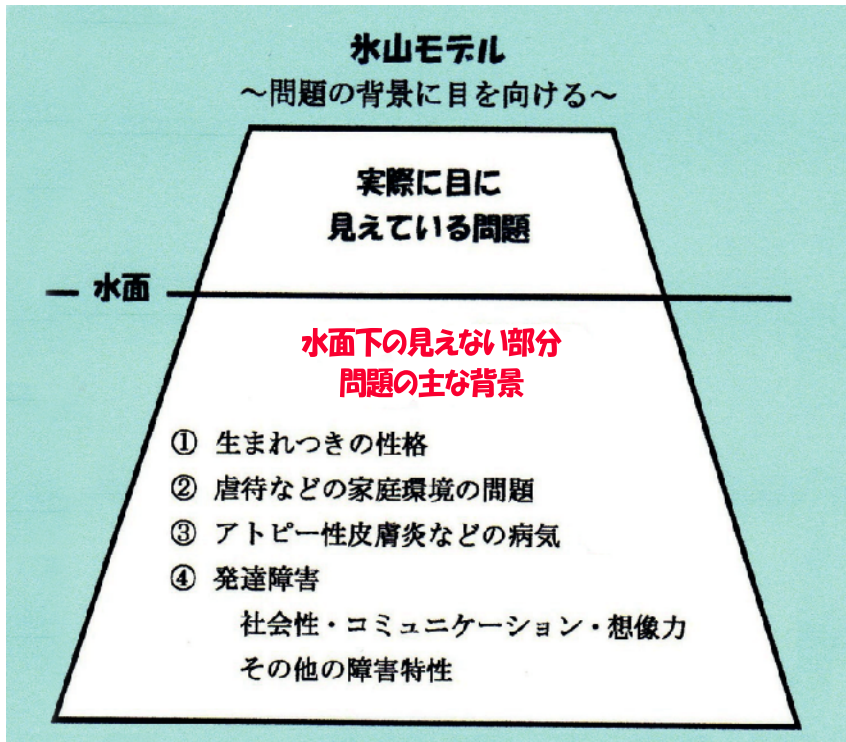
図は水面下の見えない部分の背景をしっかりと理解

足羽学園には外部から講師を招き、職員の方の思いを知るための研修があります。その中で取り上げた「Dさん」に対する支援から得られた職員の気づきを紹介します。

Dさんは嶺北養護学校に通う中学部2年の元気な男子です。

行動の面では、身軽で、高い所に登ったり、外に出ることが大好きなのですが、危険を予測しながら行動することが難しい方です。

情緒の面では、心が穏やかであるときと、そうでないときでは明らかに行動や表情に違いがあります。穏やかでないときの苦しい気持ちを理解し、その気持ち



したうえで、実際に目に見えている行動を考えなければならぬことを意味しています。

Dさんは「あつ」という間に柱や窓枠をつたって高い所に登り、上からの眺めを楽しんでいました。

職員にはとても登れるような場所ではなく、見守りながら降りてくるように声をかけることしかできませんでした。

そこで講師のアドバイスをもとに、そのような行為が見られたときには、すべの職員が同じ口調、同じ表情で危険な行為であることを伝えるよう、統一した支援を行うようにしました。よく登る場所には、目で見てわかるように「登ってはダメです！」シールを貼りました。

また、高い所に登ること以外でDさんが好きな遊びや活動を提供し「することがなくて時間があるなあ・・・じゃあ登ろう」と考える時間を減らすようにもしました。しかし、その行動は減りませんでした。

Dさんの行動を観察していると、あるとき原因の一つにたどり着きました。

居室には天窓がありまして。そこから外に出て、網戸を固定するために付いている、ひも状のゴム製品を取り外し、それで遊ぶことが目的だと分かったのです。



1時間でも2時間でも楽しめます！

それが分かってからは、ガラス屋さん協力をお願いし、廃材として処分され

るゴム製品をいただき、Dさんが欲しいときにいつでも遊べるようにしました。すると居室の窓に登ることがほとんど無くなったのです。

また、その行動が減ったもう一つの原因として、この一年でDさんの身長と体重に大きな成長があり、身体ひとつで高い所に登ることができなくなっていたことにも気づきました。身体の成長からも行動に変化が表れることを知ることができました。

どの利用者の方もすべての行動には何らかの意味・原因がありそれを知り、理解することが支援を始める第一歩になること、行動の意味を理解して支援方法を考えなければ、根本的な解決にはならないことがよく分かる経験でした。

生活の見直し

自閉症のDさんにとって、心が穏やかでなくなる一つの原因が考えられました。

毎週末の帰省のことです。「次も本当に帰ることができるとか？」「今からどのくらい待てば迎えに来てくれるのだろうか？」と、自分の帰省予定が分からず、不安な気持ちから落ち着けず、険しい表情になっていました。

そこで、Dさんが帰省の見通しを持ち、安心して生活が送れることを目標にして支援内容を考え、進めてきました。

ご家族には「毎週同じ曜日の同じ時間帯にお迎えに来てもらう決まった時間帯に足羽学園に戻ってもらう」ことを協力していただきました。それにより、職員は、いつDさんに次の帰省の予定を聞かれても同じ返事ができるようにしました。

また、Dさんの部屋に専用のカレンダーを設置することになりました。設置当初は、1週間分のカレンダーを試し、Dさんがカレンダーの意味を理解できてくるのか、Dさんに入ってくる情報量として適

当であるかなど、様子と理解の状況を確認しながら幾度も作り直してきました。



自分で「おわり」の箱に片付け

現在は3日間のカレンダーを使用し、その中にDさんの家の写真（帰省の日を意味する）が出てくると、写真に触って笑顔が見られるようになりました。

いろいろな事情から予定が変更になるときもありますが、この支援を始めてからは、余暇を利用して簡単な課題に取り組むことができるほど、表情も穏やかに落ち着いて生活を送っています。



簡単な課題

努力をおしまず 寄り添う

すべての行動の背景を完ぺきに理解することは難しいです。しかし、すべての行動に意味があることを意識し、理解する努力をおしまずに、利用者の方に寄り添う。それが私たち職員に最も必要な支援技術であることを感じます。

利用者の方が、日々の生活を安心して送ることができるように、職員は専門知識を得て、すべての職員が支援の質を向上できるように努めます。

みんなの広場

足羽学園での
楽しいひとコマ



私たち、ひな人形です！



真冬でもシャボン玉！



私は書道家！和の心